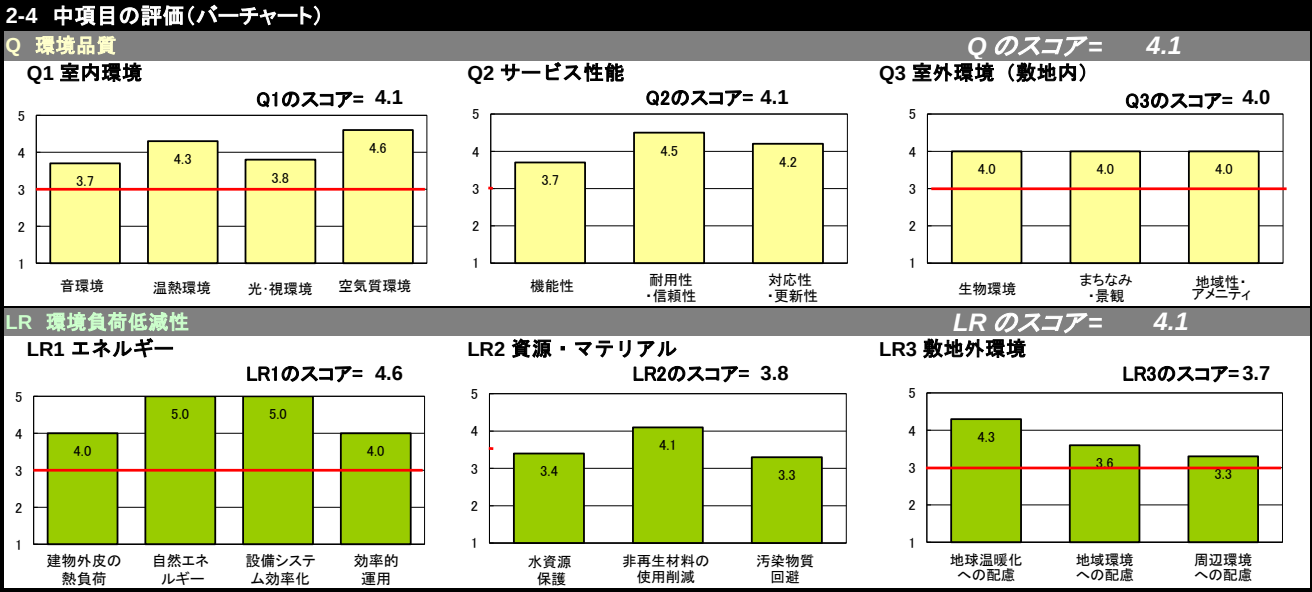
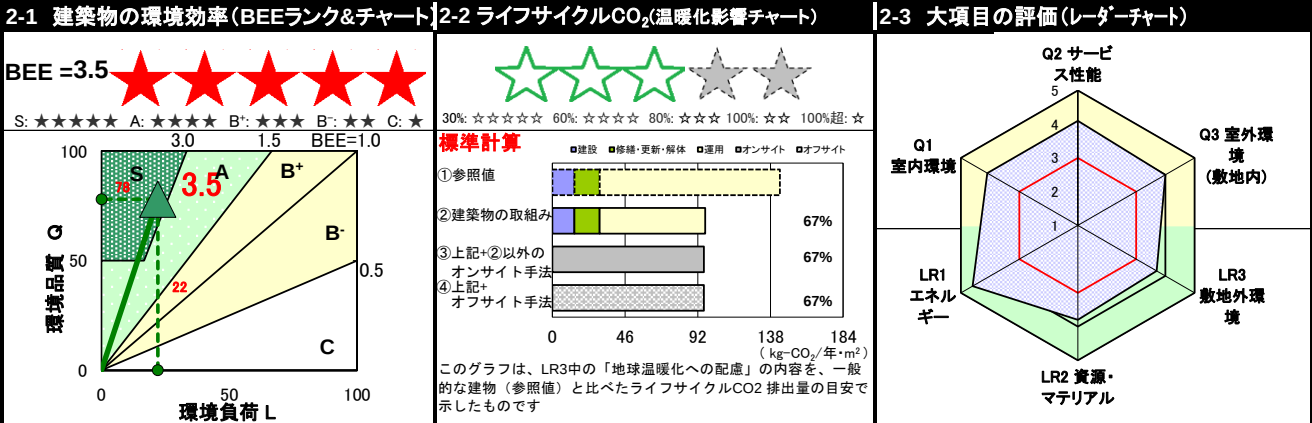


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新本店ビル新築工事	階数	地上9F、地下3F
建設地	名古屋市中区栄1丁目20-31	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,571 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,650 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2029年1月 予定	評価の実施日	2024年11月27日
敷地面積	4,757 m ²	作成者	
建築面積	3,144 m ²	確認日	
延床面積	33,348 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項	
総合	その他
本計画は、BPI・BEIを低く抑えた設計としたうえで、居室環境や建物の更新性・信頼性等にも考慮したものである。また、外構に豊かな植栽やベンチを設置することで地域にも配慮している。	特になし。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能
居室の温熱環境に配慮した空調機器(デシカント空調・床吹出空調)としている他、F☆☆☆☆の建材の採用や中央監視でCO ₂ 濃度を監視するなど、空気質も考慮した計画である。	免震構造であることに加え、節水器具の採用や非常用発電設備を設置することで信頼性にも配慮している。また、配線にはケーブルラックを使用し更新性も高い。
Q3 室外環境(敷地内)	
歩道空間を計画しベンチも設置することで地域に憩いの場を提供している。屋上テラスには植栽を設け、建物利用者にも自然を感じることができる空間を提供している。	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル
省エネに配慮し、BPI・BEIを低く抑えた計画とし、BEMSを導入することでエネルギーの見える化を図っている。	リサイクル材・ヒノキ・再利用可能な部材などを多用することで、資源に配慮した計画である。
LR3 敷地外環境	
燃焼機器を使用せず大気汚染防止に努めるとともに、光害対策も行い敷地外環境に配慮している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)新本店ビル新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.4
LR1	エネルギー	4.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.3	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.8
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
3. 循環型社会				3.9
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.1	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 4.4
	
2. 自然共生	評価点 = 3.8
	
3. 循環型社会	評価点 = 3.9
	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2)において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。